

岡山畜産便り

2015 4



赤磐市 川崎裕貴、聡子さん ご夫妻(酪農)

もくじ

[技術のページ]

- イネソフトグレインサイレージについて
岡山県農林水産総合センター
畜産研究所
飼養技術研究室 1

[家保のページ]

- 高病原性鳥インフルエンザ8年ぶりの県内発生
井笠家畜保健衛生所 3

[畜産現場の声]

- 岡山で酪農を始めました
赤磐市 川崎 裕貴 5

[共済フレッシュさんの声]

- 南部家畜診療所 石田 和子 6

- みわTMRセンターを視察して
(一社)岡山県畜産協会経営支援部 7

[ホットニュース]

- ・平成26年度和牛シンポジウム真庭市で開催
・岡山県養豚振興協会主催
第47回豚枝肉共励会を開催
(一社)岡山県畜産協会 8

- 岡山県畜産関係者名簿 9

- 岡山県農業共済組合連合会 11

- 全農岡山県本部畜産部 12

- おかやま酪農業協同組合 13

- 一般社団法人岡山県畜産協会 14

- 岡山県畜産関係各種協議会 15

GEA

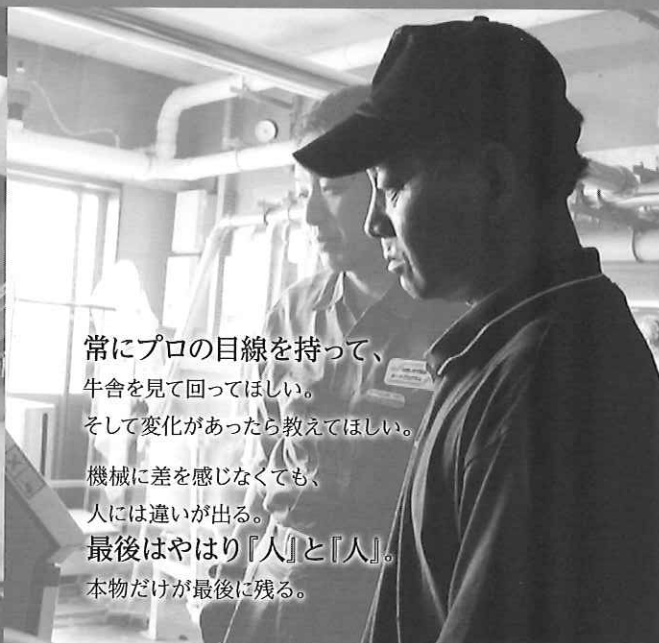
ORION

ORION
ROUTE
PROGRAM



常に一生懸命さと高い意識を
持っていてほしい。
だからこちらも信頼するようになる。

普段自分たちが気付かないことに
気付いてくれる。
どうしても機械に頼るものだから、
自分たちではどうしようもないことを助けてくれる。



常にプロの目線を持って、
牛舎を見て回ってほしい。
そして変化があったら教えてほしい。

機械に差を感じなくても、
人には違いが出る。
最後はやはり「人」と「人」。
本物だけが最後に残る。

オリオンルートプログラム ORION ルートプログラマーは、日々全国の酪農家の皆さまの下に足を運び、
機器の点検を始めとした経営向上のサポートをしています。



関東オリオン株式会社 酪農営業部
ルートマネージャー 島田和徳

いつも「行く」からこそ見えてくる。



中国オリオン株式会社

岡山本社 〒700-0945 岡山市南区新保680-1 TEL.086-239-1811
営業所：岡山・津山・広島・上下・鳥取・出雲・小郡・大阪

岸化学グループ

CKP 株式会社 正和

代表取締役 岸 小三郎

岡山本社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号

TEL 086 (450) 3807
FAX 086 (450) 4008

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58

TEL 0829 (40) 5177
FAX 0829 (40) 5178

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

TEL 0847 (54) 2007
FAX 0847 (54) 2008

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

TEL 0857 (50) 1736
FAX 0857 (50) 1738

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

TEL 0868 (62) 1232
FAX 0868 (62) 1233

取扱品目

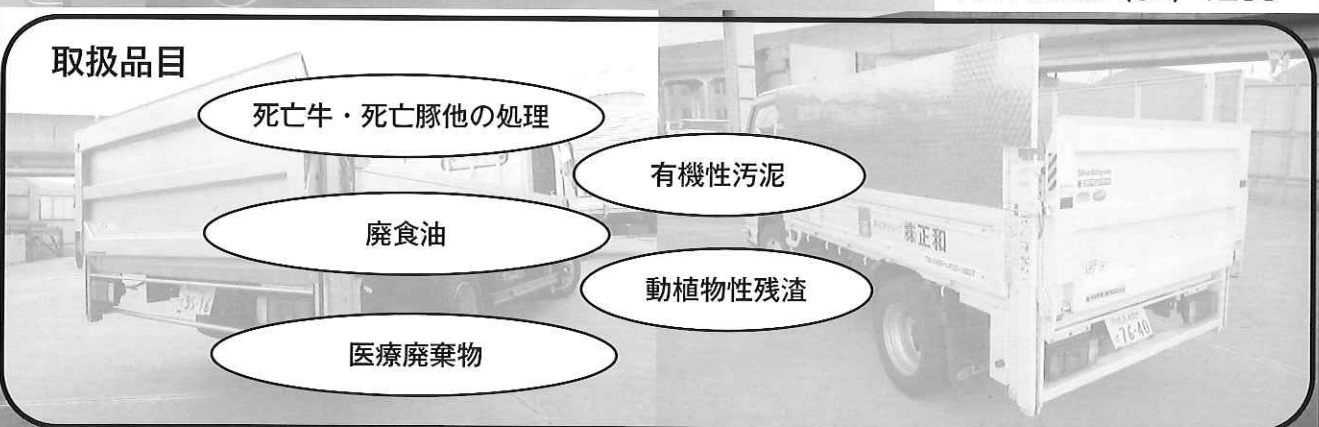
死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物



〔技術のページ〕

イネソフトグレインサイレージについて

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養技術研究室

はじめに

水田の有効利用や国産飼料の増産の手法としてイネWCSは、専用収穫機械の普及や専用品種の育種等により普及してきました。さらに、水田の有効利用をすすめるうえで、輸入トウモロコシの代替えが期待できる高デンプン質飼料として飼料米の生産も増加してきています。飼料米の利用方法は、乾燥して粳米、玄米として、利用するものと、サイレージ化して貯蔵し利用するものと大きく二つに分けられます。

米のサイレージは、イネソフトグレインサイレージと呼ばれています。ここでは、主として牛に給与することを念頭においたソフトグレインサイレージについて紹介します。



イネSGS (中生新千本)

1 ソフトグレインサイレージとは？

ソフトグレインサイレージはSGSと表記されます。SGSとは、穀物（グレイン）をサイレージ調製したものをさします。一般に完熟する前の穀物をもちいるので柔らかい（ソフト）と言われますが、完熟した穀物を用いた物もSGSと呼ばれていま

す。粳を乾燥させるために設備と経費がかかるのでSGSをうまく調製すると有利になります。また乾燥米は保存に設備が必要なのに対し、SGSは、一般的にはビニール袋の内袋に入れ空気を抜いて密閉し、トランスバックへ入れて調製しますので、野外で保存することができることもメリットです。

2 イネSGSの調製

牧草等のサイレージ調製をうまく行うためには、①水分調整 ②糖質（乳酸菌のエサ）③嫌気が重要です。そのためには適期に収穫し、水分調整を行い、牧草類を細切してサイロに詰め込み密封してやります。イネSGSの調製も基本的には同様です。水分は、牧草類とは逆に加水して高くしないと発酵しません。水分を35%程度になるよう加水します。糖質は、粳を粉砕することで高めることができます。嫌気は同様で、イネSGSでは、ナイロンの内袋に詰め込みフレコンバックに入れ脱気します。これに加えて粳には乳酸菌の付着が非常に少ないので、乳酸菌の添加が有効です。ここでは、破碎処理の重要性について、当所の試験成績から述べます。

表に、当所で試験を行った破碎と糖質添加の効果を調べた結果を示しました。完熟期（水分22%）の粳米に加水して水分35%した時の各処理の発酵品質を示しました。pHは、低い程発酵が進んでおり、総酸は多いほど発酵が進んでいることを表します。一般的なイネWCSでは、pHは4.0～4.5で総酸は2～4%含まれています。

イネSGS発酵品質

| 破碎 | pH | %Fm 総酸 | 酸組成% | | |
|------|------|-----------|------|------|-----|
| | | | 乳酸 | 酢酸 | 酪酸 |
| 無 | 4.95 | 0.14 | 44.7 | 54.0 | 1.3 |
| 無+糖蜜 | 4.41 | 0.43 | 69.2 | 30.8 | 0.0 |
| 有 | 4.17 | 2.18 | 70.5 | 29.5 | 0.0 |

糖蜜は、2%添加

破碎しない場合、総酸が0.14%と発酵がほとんど進んでいないことがわかります。また、糖蜜を加えることにより総酸が0.43%に増えており糖質の効果も見られません。一方、粉碎することによりpHが低くなり総酸も2.18%と大きく増えています。

ついで、発酵の質は乳酸が多く、酪酸のないものが優良とされます。無破碎では乳酸が44.7%と少ないのに対し糖質の添加、破碎により乳酸中心の発酵になっています。

3 イネSGSの利用

良質な発酵のみを求めるのであれば、乳酸菌の餌となる糖質を加えて調製すれば可能ですが、牛の利用面から見ても粉碎は必須です。

表 SGSの破碎が乳生産に与える影響 kg % mg/dl

| 区分 | 乳量 | DMI | 飼料効率 | 乳脂肪 | 乳蛋白質 | MUN |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 未破碎区 | 26.5 | 19.7 | 1.41 | 3.76 | 2.91 | 10.6 |
| 破碎区 | 30.4 | 21.5 | 1.51 | 3.95 | 3.02 | 9.0 |

表にイネSGSを乾物で19%添加した発酵TMRを給与した場合の乳生産に及ぼす

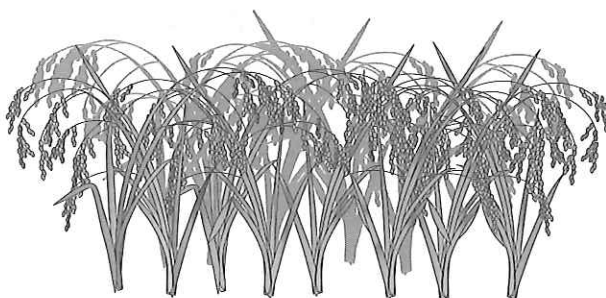
影響を示しました。乳量は、破碎と未破碎では大きく差がありました。DMI（乾物摂取量）は破碎区が多くなりましたが、乳量が多くなるため飼料効率は破碎区が良くなりました。乳成分も破碎区が高い傾向にありました。MUN（乳中尿素窒素）は破碎区が低くなりました。MUNは、飼料中のタンパク質が有効に使われたかどうかの指標になります。飼料中のタンパク質が有効に使われるためには、第1胃内微生物の餌となる糖質が充分あることが必要です。ここでは、破碎により米のデンプンがうまく利用でき、飼料中のタンパク質が有効に使われたものと推測できます。

なお、他所の試験で破碎の程度は消化性に大きな影響が無いことが確認されています。

まとめ

イネSGSは、畜産農家が自ら調製して利用したり、イネWCSのように今後流通が始まることが考えられます。飼料米の利用は、濃厚飼料の購入を減らし、生産費の低減による経営の安定につながる可能性があります。また、「地元の米」を食べたという特色を生かした生産物の付加価値につながることも期待できます。

現在、県内でもJAびほくでの養豚での利用や哲多和牛牧場での肥育への利用などイネSGS調製の取り組みが行われています。



〔家保のページ〕

高病原性鳥インフルエンザ8年ぶりの県内発生

井笠家畜保健衛生所

今年1月15日、笠岡市にある約20万羽飼養の採卵養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生しました。

今冬はそれまでに宮崎・山口県で計3件発生していたことから、岡山県では生産者への情報提供、県庁・県民局内で連絡会議の開催など、警戒を強めていた矢先の出来事でした。

1. 生産者からの早期通報

生産者からの通報は、ウインドレス鶏舎1棟で限局した場所で数羽が死亡、鶏群の死亡率が通常の2倍に上昇という内容で、いわゆる早期通報でした。

同居鶏検査において、他の鶏舎はもちろんのこと、同一鶏舎内でも患畜以外に感染鶏が確認されなかったことから、通報が発生初期段階にあったことが伺えます。



深夜、高床鶏舎の殺処分作業

2. 防疫措置の概要

15日昼過ぎ、発生農場では「疑い」の段階で、鶏の移動禁止、鶏卵の出荷自粛、車両や人の入場・外出の自粛、通行止め、緊急消毒などを措置しました。

15日深夜、疑似患畜が確定したと同時に



焼却場での投入作業

防疫措置を開始し、19日に殺処分を終了しました。埋却は地滑り地帯のため断念し、飼料、鶏糞、堆肥等は農場内に封じ込めました。その後清掃・消毒を行って23日夜に発生地での防疫措置を終了しました。

処分鶏の焼却は17日から開始し、最終的に4施設（吉備路クリーンセンター、水島清掃工場、岡山市東部クリーンセンター、高梁地域事務組合クリーンセンター）で処理し、24日夜に終了しました。

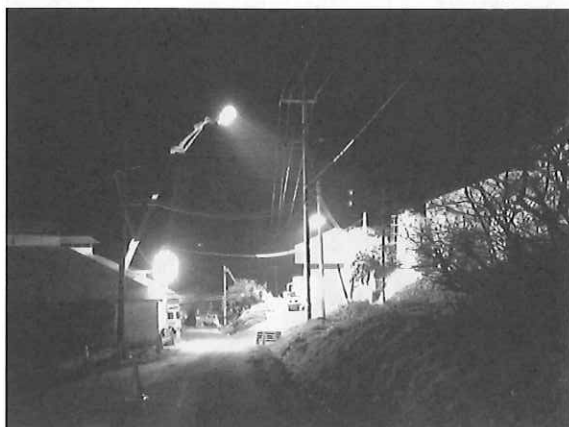
消毒ポイントは疑似患畜決定と同時に3カ所で運営を開始し、16日までにインター2カ所を含む計9カ所を設置しました。

周辺地域では、半径3kmの移動制限区域に6戸の養鶏場、3～10kmの搬出制限区域に15戸の養鶏場があり、「疑い」の段階で自粛を要請し、移動制限農場には速やかな立入と血液検査を実施し、全戸で陰性を確認しました。その結果、17日朝に移動制限農場の鶏卵が出荷可能となりました。

また人・車両・家きんの移動歴に基づき疫学的に関連がある数カ所の農場に対しても、速やかに立入し、異常がないことを確認し、監視を続けました。

2月7日に搬出制限が解除され、2月14日に移動制限が解除となり、すべての防疫措置が終了しました。

作業人員は延8,514人（県職員4,808人、自衛隊400人、国459人、市町村242人、警察1,170人、他府県32人、農業団体124人、土木団体1,277人、他2人）に及びました。



夜間活躍した照明車両

また物的支援として、消毒ポイントや工事関係は建設業協会の、輸送車両やフォークリフトは建設業協会とトラック協会の、照明車両や散水車は国土交通省中国地方整備局の協力を得ました。

3. これまでの取組成果と課題

岡山県では平成18年度の県内発生を踏まえて、市町村との防疫協定の締結、マニュアルの改訂、県職員・市町村職員の研修・訓練、自衛隊との協議などの対策を重ねてきました。

平成23年度には家畜伝染病予防法や防疫指針が大幅に改訂され、防疫措置の早期化が求められたため、建設業協会との協定締結、備蓄の増強、農場情報のデータベース化、畜産関係職員の記名式人員配置表の作成、家保間の役割分担化、消毒ポイントの設計図面の作成、標準タイムスケジュールの作成などにも取り組んできました。

その成果として、疑似確定と同時に殺処分開始、消毒ポイントの迅速設置、広域な

焼却処分、建設業協会の多様かつ迅速な対応などが可能となりました。

しかし、大規模養鶏への対応として課題もありました。



消毒ポイント作業

輸送車両の確保、夜間作業や長期化に対応した人員の確保、より具体的な防疫計画の作成、情報伝達システムの改善などです。

今後これらの課題に対応していくよう検証作業を進めています。

4. 発生防止に向けて

今回の原因ウイルスの血清型はH5N8で、昨年からの各国で甚大な被害を及ぼしているタイプです。侵入経路は確定していないものの、国の疫学チームによれば、野鳥が国内に持ち込み、ネズミなどの野生動物が鶏舎内に持ち込んだ可能性が示唆されています。

再びこの惨禍に見舞われないためには、①車両や人は入場制限し消毒する②鶏舎の中と外では衣類や靴を分ける③防鳥ネットを設置する④鶏舎の隙間や穴を埋めてネズミなどの野生動物の侵入を防ぐなどの対策を一層強化することが大事です。

今後とも生産者、地域経済、畜産物を守りきるため、関係者一丸となった取り組みをお願いします。

今回、関係者の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

〔畜産現場の声〕

岡山県で酪農を始めました

赤磐市 川崎 裕貴

川崎裕貴、聡子ご夫妻は、平成26年9月、赤磐市で放牧酪農をされていた岩本忠可氏から牧場を譲り受け、はるばる北海道帯広市からご夫婦とお子さんの4人で移り住み、酪農を始められます。就農のきっかけや将来の夢についてお聞きしました。

就農の経緯は

大学院を出てシステムエンジニアとして会社に勤めていたが、妻の実家が北海道帯広市で酪農経営をしていたこともあり、就農を夢みていた。平成22年10月からは妻の実家で1年、その後北海道阿寒で研修するとともに、埼玉、静岡、兵庫の酪農家を視察するなど、就農を視野に入れながら技術のスキルアップや知識の習得を行ってきた。平成24年の春頃、全国の県庁や市町村役場に就農情報を集めるため、メールを送っていた。岡山県庁からもメールが届き、後継者を探している2件の酪農家を県庁畜産課の吉元さんが案内をして下さった。その後、岩本牧場も後継者を探しているとの連絡を受け、平成24年の夏に牧場を視察した。牧場の景色、飼育方法に大変感銘し、放牧酪農への興味が高まった。平成25年4月からは就農のための準備をしながら1年間研修をして翌年には認定就農者となり、9月には岩本さんから牧場を譲り受け酪農を開始した。この間、平成26年3月には認定農業者となった。

就農しての苦労は

苦労はこれからだと思う。乳牛も放牧地も自分一人で管理しだしてまだ半年である。岩本さんは、24haある放牧地の草を、葉の形で牛が食べるか食べないかを見極めて除草剤を散布し管理されていた。自分が

できるようになるまでには時間がかかる。それまでは牛に任せて、食べ残した草を除去して草地を維持していこうと思う。草地の管理が一番の心配の種である。もう一つは、人工授精により、上手に受胎させることができるかどうかである。研修の時は、岩本さんに手伝ってもらっていたが、一人でするようになってからは、うまく受胎しているか自信がない。昨日、育成牛の妊娠鑑定をしてもらい4頭中3頭が受胎していて、ほっとしている。経産牛もうまく受胎していることを祈っている。

将来の夢

去年までは就農が目標であった。借金を返すだけでは夢がない。経産牛を現在の22頭から30頭まで拡大して、一日でも早く経営を軌道に乗せたい。将来の夢としては、アイスを作っている酪農家が赤磐市にはいない。特産品である桃とアイスをコラボすれば素晴らしい商品も開発できる。

6次化事業に取り組み、地域の人みんなが参加できるような店ができれば良いなと思っている。

また、牧場の土地を植林組合から借りているので、おじいさん、おばあさん方の癒しの場所としても提供するなど、地域を盛り上げていければと思っている。



〔共済フレッシュさんの声〕

南部家畜診療所 石田 和子

大動物臨床獣医師として地元岡山県に帰り早くも1年が経ちました。「獣医さんになって、捨てられて怪我をした動物たちを助きたい！」そう思ったのは、まだまだ幼い幼稚園児の頃だったように思います。高校3年間で、ソフトボールに捧げた私にとって獣医学の勉強はなかなかハードなものでしたが、家族や友人の支えがあり、無事4月から獣医師としてスタートを切ることができました。

私の地元笠岡市には畜産に関わる方ならよくご存じの通り干拓地を中心に多くの牛たちがいます。しかし、私はその存在をほとんど知らず、動物病院の獣医師を目指して北海道にある酪農学園大学に進学しました。

大動物臨床獣医師を目指すきっかけとなったのが2年次の夏休みを利用して約3週間行う酪農実習です。私は、オホーツク海に面し、冬には流水も近づく紋別市の酪農家さんでお世話になりました。朝早くからの搾乳にはじまり、牛舎内の掃除、牧草の管理、家事等に追われながらもイキイキと楽しそうに仕事をする酪農家さん、そして、農場を訪れる方々との畜産に対する熱い会話、真剣な姿勢に触れ、獣医師として役に立てたらどんなに楽しいだろうと思い始めたのです。

4月に生産獣医療支援センターでの仕事が始まり、半年間の研修期間を経て10月からは南部家畜診療所に配属となりました。

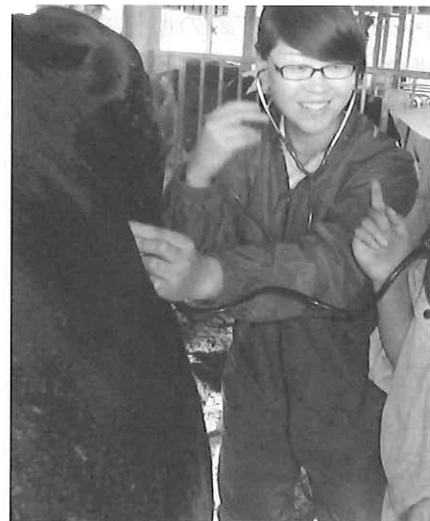
最初は、農家さんの名前と場所を覚えるところからのスタートです。牛を保定し、診察、注射を打つという流れがスムーズに行えず、農家さんの役に立つどころか作業の邪魔をしているようで申し訳なく、周りを見る余裕もありませんでした。「焦った時ほど冷静に！」とよく言いますが、なかなかそうはできないものです。1年経ってようやくその流れにも慣れてきて（まだまだ時間はかかっていますが…）広い視野で

落ち着いて農場の環境、牛群の様子を観察できるようになった？のではないかと思います。

獣医師として農家さんの役に立つとは？と考えたとき、その方法は様々で、単純に病気の牛を治療することだけが答えではありません。臨床現場でここが最も難しいところだと感じています。治療を施した結果が生産性を損ねるようでは農家さんの役に立っているとは言えません。もちろん、多くの経験を積み、疾病に対する知識や治療技術を身に着けることが今の第一課題であり、まだまだ先輩獣医師には遠く及ばず勉強が必要だと感じています。

しかし、本当の意味で役に立つには、問題点を早めに見つけ生産性が向上する改善策を提案する力も養わなければならないと強く感じています。そのためには、各農場の給餌方法、搾乳方法、繁殖管理、飼養環境等を日々の診療で把握し、農家さんが抱える悩みや考えを聞き出すことが重要です。これもまた、2年目を迎えるに当たり今後の大きな課題です。

課題は山積みですが、一つ一つクリアしていき、農家さんが信頼して気軽に相談できる獣医師になるようこれからも日々精進していきたいと思います。



みわTMRセンターを視察して

(一社) 岡山県畜産協会 経営支援部

平成27年2月24～25日に広島県三次市で開催された「平成26年度全国コントラクター等情報連絡会議」において、「広島県酪農業協同組合みわTMRセンター（三次市三和町）」の視察に参加しました。

みわTMRセンターは、広島県酪農業協同組合の2つTMRセンターを統合し平成26年3月に竣工しました。センターでは、基礎配合飼料、おから・ビール粕等の粕類、アルファルファ・オーツヘイ・スーダンの輸入乾牧草及び稲WCS（品種：たちすずか又はたちあやか）等の国産粗飼料等を原料にし、500kgのベールに梱包圧縮した発酵TMR（主に高泌乳用と中泌乳用の2種類）を製造し、組合員に斡旋しています。TMRを利用する組合員の評判は非常に良く、センターの竣工後、稲WCSをTMRの原料に利用するようになり、飼料価格が高騰する中でもTMR価格（組合員36～38円/kg）の上昇はなかったとのこと。

TMRに混合する稲WCSの割合は、H26年度の15%から20%以上に増やす予定で、広島県酪農業協同組合はH27年度産の稲WCSを80ha分以上確保しているそうです。稲WCSの買い取り価格は3,348円（税込）/ロール（300～320kg）で、収穫運搬作業は広島県酪農業協同組合が委託料30,240円（税込）/10aで実施しています。

おわりに

主食用米の価格が低迷するなか、水稻農家の収入確保のため、飼料稲の生産拡大が必要です。しかしながら、利用する畜産農家の需要が少ないことがネックとなり、生産が進まない場合があります。

畜産農家には品質が保証された低価格の飼料が求められ、水稻農家には生産した飼料稲の販売先が求められています。この二つの課題を同時に達成する手段として、飼料稲を利用できるTMRセンターの設立が考えられ、設立に向けた検討の必要性を感じました。



〔ホットニュース〕

平成26年度和牛シンポジウム真庭市で開催

高齢化、担い手不足による肉用牛生産基盤の弱体化が進むなど依然として厳しい肉用牛を取り巻く経営環境の中、和牛生産者の意欲高揚と和牛生産の振興につなげるシンポジウムを平成27年3月26日(木)、昨年に引き続き真庭市鍋屋久世エスパスセンター エスパスホールで開催しました。

今回のシンポジウムは(一社)岡山県畜産協会をはじめ全農等県下畜産五団体で構成する実行委員会の主催及び岡山県、真庭市の後援を得て開催しました。県北部を会場として毎年この時期に開催しており、和牛シンポジウムとしては十三回目を迎えました。

今回は「高騰続く子牛価格、今こそ何をすべきか」とのテーマの基に、紹介と講演を行いました。最初に県畜産研究所片岡博行育種改良グループ長から「実績のある推奨種雄牛で優れた子牛生産を」について、また畜産協会の永原陸恵主事から「和牛入門講座8年間の取り組みとその成果」についての紹介を行い、続いて株式会社松永牧場松永直行取締役より「今なすべき肉用牛生産農家の経営安定対策について」と題しての講演をいただきました。子牛価格が高値で推移する中での生産者が取り組むべき課題について、広い視野での豊富な経験と知識に基づく種々の示唆に来場者は真剣に聞き入っていました。

今回の参加者は和牛飼育農家、行政、JA等関係団体、132名でした。



岡山県養豚振興協会主催第47回豚枝肉共励会を開催

岡山県養豚振興協会(会長 石原正敬 事務局:(一社)岡山県畜産協会)は平成27年3月2日(月)から3月4日(水)の3日間、岡山県営食肉卸売市場において第47回豚枝肉共励会を開催し、3月4日(水)に審査と表彰式を行いました。

この共励会は岡山県養豚振興協会が会員相互の交流と肉質の向上を目指して毎年10月と3月の2回開催しているもので、今回で47回を数えました。

今回の出品は会員7農場から30組60頭の出品があり、品種はLWDの三元交配種26組52頭、WLD三元交配種4組8頭で、出荷日齢は平均175日、枝肉重量は平均76.2kgで、上物率は76.7%と好成績でありました。



審査は岡山県営食肉地方卸売市場の平本場長を初め5名の審査員で行われ、全般的に、もも張り、きめしまりが良く、肉付のバランスの整ったものが揃っている、との講評でした。

審査の結果、最優秀賞首席に(有)協和養豚、最優秀賞2席に(有)MPFやなはら、最優秀賞3席に新田養豚の出品豚がそれぞれ選ばれました。

午後1時から行われたセリでは最優秀首席がkg当たり813円、全平均562円の高値で取引されました。

岡山県畜産関係者名簿 (平成27年4月1日現在)

| 部 署 | 職 名 | 氏 名 | 部 署 | 職 名 | 氏 名 |
|--|----------------|--------|---|-------|--------|
| 畜産課 (20) 生産振興班 衛生環境班 経営流通班 | 課長 | 中塚 陽二郎 | 岡山家保 家畜保健衛生課 (19) 事務 (休) 病性鑑定課 | 所長 | 江本 正 |
| | 副課長 | 清水 浩史 | | 課長 | 松長 清美 |
| | 総括参事 (生産振興班長) | 馬場 誠 | | 副参事 | 森分 哲彦 |
| | 副参事 | 斉藤 浩史 | | 主幹 | 山内 章江 |
| | 主幹 | 植田 幹隆 | | 主幹 | 金岡 孝和 |
| | 主幹 | 吉井 宏介 | | 主幹 | 錦織 拓美 |
| | 主幹 | 内田 啓一 | | 主幹 | 佐野 通 |
| | 主任 | 小田 亘 | | 主任 | 佐藤 静子 |
| | 主任 | 立川 優子 | | 主任 | 小出 康代 |
| | 総括参事 (衛生環境班長) | 山田 徹夫 | | 主任 | 黒岩 恵 |
| | 副参事 | 平田 祐介 | | 主任 | 難波 かおり |
| | 副参事 | 安藤 恭治 | | 技師 | 水上 智秋 |
| | 副参事 | 田原 鈴子 | | 技師 | 谷口 翔 |
| | 主任 | 福田 新 | | | |
| | 総括参事 (経営流通班長) | 津寺 春良 | | 課長 | (所長兼務) |
| | 副参事 | 河原 貴裕 | | 専門研究員 | 澤田 勝志 |
| | 副参事 | 山本 伸二 | | 専門研究員 | 別所 理恵 |
| | 副参事 | 池田 克美 | | 研究員 | 橋田 明彦 |
| | 主任 | いざさ 啓介 | | 研究員 | 出石 節子 |
| | 主任 | 保田 憲一 | | 研究員 | 澤井 紀子 |
| | | 技師 | 廣瀬 友理 | | |
| 備前県民局 (7) (休) (再任用) | 総括副参事 (畜産班長) | 正吉 輝彦 | 井笠家保 (10) | 所長 | 多賀 伸夫 |
| | 副参事 | 内田 義男 | | 次長 | 澤田 健二 |
| | 副参事 | 脇本 進行 | | 副参事 | 西川 真琴 |
| | 副参事 | 串田 晴彦 | | 副参事 | 秦 守男 |
| | 主幹 | 岡田 英樹 | | 主幹 | 清水 淳也 |
| | 技師 | 吉田 由紀 | | 主任 | 田中 静香 |
| | 臨時事務職員 (代替) | 藤原 建紀 | | 主任 | 紙谷 建志 |
| | | 額田 和敬 | | 主任 | 高崎 緑 |
| | | | | 主任 | 児子 友美 |
| | | | | 技師 | 山口 葵 |
| 備中県民局 (12) (休) (新採用) | 農畜産物生産課長 | 広金 弘史 | 高梁家保 (9) | 所長 | 田林 宏一 |
| | 総括副参事 (畜産第一班長) | 藤原 努 | | 次長 | 森 尚之 |
| | 主幹 | 塩田 鉄朗 | | 副参事 | 岡田 ひろみ |
| | 主幹 | 石川 和人 | | 副参事 | 守屋 吉英 |
| | 主幹 | 高取 健治 | | 副参事 | 高見 剛 |
| | 主幹 | 朝倉 麻由子 | | 副参事 | 坂部 吉彦 |
| | 主任 | 宮本 康子 | | 主幹 | 武縄 勝浩 |
| | 主任 | 武藤 多佳子 | | 主幹 | 萱原 佳美 |
| | 技師 | 網島 優子 | | 主任 | 横内 百合香 |
| | 総括副参事 (畜産第二班長) | 遠藤 広行 | | | |
| 副参事 | 川口 泰治 | | | | |
| 主幹 | 横内淳一郎 | | | | |
| 美作県民局 (10) | 農畜産物生産課長 | 菱川 雅弘 | 真庭家保 (10) | 所長 | 平野 充生 |
| | 総括副参事 (畜産第一班長) | 吉元 和明 | | 次長 | 中村 浩三 |
| | 副参事 | 大谷 晴美 | | 副参事 | 権代 将人 |
| | 主幹 | 三木 隆司 | | 副参事 | 松馬 定子 |
| | 主幹 | 片岡 まどか | | 主幹 | 田中 健嗣 |
| | 主任 | 高取 和弘 | | 主幹 | 馬場 彩 |
| | 技師 | 田中 康裕 | | 主任 | 笹尾 浩史 |
| | 総括副参事 (畜産第二班長) | 三宅 清 | | 主任 | 梯 洋介 |
| | 副参事 | 牧野 俊英 | | 主任 | 荒木 由季子 |
| | 主幹 | 中山 裕貴 | | 技師 | 田中 恵 |

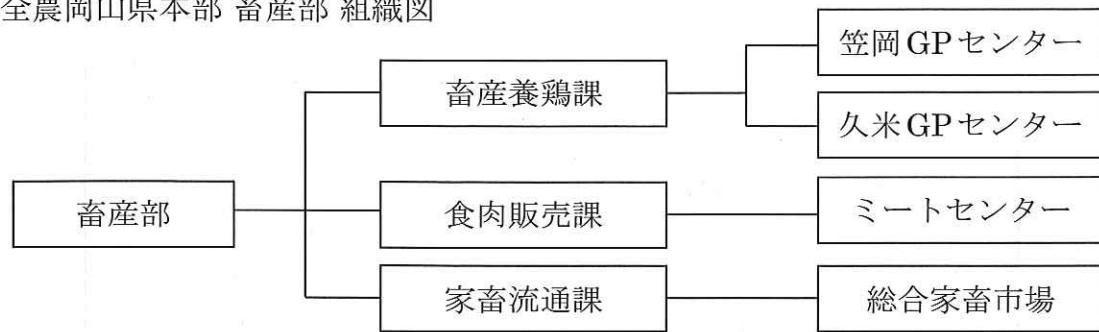
| 部 署 | 職 名 | 氏 名 | 部 署 | 職 名 | 氏 名 |
|--|----------------------|-----------------------|--------------------------|--------------|----------|
| 津山家保 (14) | 所長 | 加藤 信介 | 飼養技術研究室 (生産性向上研究グループ) | 室長(特別企画専門員) | 木曾田 繁 |
| | 総括参事 | 橋本 尚美 | | グループ長 | 滝本 英二 |
| | 副参事 | 小阪 和正 | | 研究員 | 福島 成紀 |
| | 副参事 | 板坂 義昭 | | 技師 | 西村 祐枝 |
| | 副参事 | 平井 伸明 | | 主幹 | 山田 庄市 |
| | 主幹 | 西 淳子 | | 主幹 | 安藤 芳宏 |
| | 主任 | 定森 淑子 | | 主幹 | 富田 康 |
| | 主任 | 瀬尾 聡一 | | 主幹 | 大平 嘉秀 |
| | 主任 | 藤原 裕士 | | グループ長(特別研究員) | 長尾 伸一郎 |
| | 技師 | 光宗 仁美 | | 専門研究員 | 田邊 裕司 |
| | 技師 | 越智 春陽 | | 技師 | 杉本 裕亮 |
| | 技師 | 森 眞理子 | | 主幹 | 定賀 和夫 |
| | (新採用) 技師 | 石川 晶子 | | 主幹 | 服部 一洋 |
| | (再任用) | 早瀬 文繁 (欠員) | | 主任 | 有富 勝仁 |
| | | 主任 | 杉山 卓 | | |
| | | 主任 | 福島 敏道 | | |
| 農林水産総合センター 〃普及連携部 総務課 (畜産研究所駐在) | 次長 | 栗木 隆吉 | 食肉市場(10) | 場長 | 平本 圭二 |
| | 副参事 | 行森 美枝 | | 次長(総務課長) | 金関 鉄也 |
| | 主幹 | 西村 江理子 | | 副参事 | 小崎 敦史 |
| | 主幹 | 樋口 久男 | | 主任 | 森田 忠義 |
| | 主幹 | 高元 則匡 | | 課長 | 井上 信治 |
| | 主事 | 殊井 麗子 | | 主幹 | 眞木 元 |
| | | | | 主幹 | 黒岩 力也 |
| | | | | 主任 | 難波 浩 |
| | | | | 主任 | 妹尾 直樹 |
| | | | | 主任 | 荒金 知宏 |
| 〃畜産研究所 (43) 経営技術研究室 (企画開発グループ) | 所長 | 河原 宏一 | 酪農大(2) | 校長 | 山田義和(OB) |
| | 副所長 | 秋山 俊彦 | | 副校長 | 岸戸 武士 |
| | 室長(特別企画専門員) | 大谷 啓介 | | 課長(副校長兼務) | (岸戸 武士) |
| | 特別企画専門員 | 山本 康廣 (経営技術研究室長兼務) | | 技師 | 金谷 眞澄 |
| | グループ長 | 森山 靖成 | | | |
| | 専門研究員 | 川尻 鉄也 | | | |
| | 専門研究員 | 森清 邦彦 (欠員) | | | |
| | 技師 | 白石 誠 | | | |
| | | 水木 剛 | | | |
| | (環境研究グループ) | 砂原 一彦 | | | |
| | グループ長 | 片岡 博行 | | | |
| | 研究員 | 岡本 雄太 | | | |
| | 研究員 | 小林 宙 | | | |
| 主幹 | 福井 康勝 | | | | |
| 主任 | 村田 和弘 | | | | |
| 主任 | 高山 勲 | | | | |
| 主任 | 横山 明彦 | | | | |
| (再任用) 主事 | 定本 護 (改良技術研究室長兼務) | | | | |
| (養豚研究グループ) | グループ長 | 佐々木 真也 | | | |
| 専門研究員 | 湛増 美好 | | | | |
| 主幹 | 岡本 元正 | | | | |
| 主任 | 福島 満志 | | | | |
| (再任用) 主事 | 上田 利男 | | | | |
| (再任用) 主事 | 中原 仁 | | | | |
| (繁殖システム研究グループ) | グループ長 | 有安 則夫 | | | |
| 専門研究員 | 金谷 健史 | | | | |
| 研究員 | | | | | |

岡山県農業共済組合連合会

平成27年度4月1日

| | | |
|------------------|------|-------|
| 家畜部 | 部長 | 植月義友 |
| 家畜課 | 課長 | 日下知加久 |
| TEL 086-224-5596 | 課長補佐 | 鴨井敏則 |
| FAX 086-225-7064 | 主任 | 水戸康明 |
| | 技師 | 池山歩惟 |
| | 嘱託 | 西村一道 |
| 生産獣医療支援センター | 所長 | 亀森泰之 |
| TEL 0867-22-1500 | 次長 | 影山毅 |
| FAX 0867-22-1194 | 副主幹 | 西川達也 |
| | 主任 | 荒木勇介 |
| | 技師 | 根木慶彦 |
| | 嘱託 | 大賀まりえ |
| 南部家畜診療所 | 所長 | 高市直登 |
| TEL 086-943-6888 | 主任 | 久田野歩 |
| FAX 086-943-7703 | 技師 | 齋藤愛 |
| | 技師 | 石田和子 |
| | 臨時 | 根岸寿子 |
| 西部基幹家畜診療所 | 所長 | 前原健成 |
| TEL 0865-64-4141 | 次長 | 正木丈博 |
| FAX 0865-64-2926 | 主任 | 池山亨 |
| | 技師 | 石井さやか |
| | 技師 | 村上正浩 |
| | 嘱託 | 岩原幸治 |
| | 臨時 | 小野好恵 |
| 西部家畜診療所 | 所長 | 村田一人 |
| TEL 0866-22-2211 | 主幹 | 西山篤 |
| FAX 0866-22-0358 | 技師 | 渡邊卓彌 |
| | 嘱託 | 山本幹男 |
| | 臨時 | 中笹良恵 |
| 西部家畜診療所新見支所 | 副主幹 | 大屋卓志 |
| 北部基幹家畜診療所 | 所長 | 藤井多加治 |
| TEL 0868-26-1112 | 次長 | 杉山定 |
| FAX 0868-26-6632 | 主幹 | 田村展敏 |
| | 副主幹 | 畦崎正典 |
| | 副主幹 | 大谷香里 |
| | 主査 | 江草佳彦 |
| | 技師 | 神田遥子 |
| | 技師 | 若槻拓司 |
| | 技師 | 上総亜由奈 |
| | 技師 | 高岡亜沙子 |
| | 嘱託 | 福原稔 |
| | 臨時 | 小林直子 |
| 真庭家畜診療所 | 所長 | 山護 |
| TEL 0867-44-2164 | 技師 | 森田康広 |
| FAX 0867-44-5319 | 技師 | 富永由香 |
| | 嘱託 | 西原直 |
| | 臨時 | 古谷和江 |
| 蒜山家畜診療所 | 所長 | 犬間一郎 |
| TEL 0867-66-2517 | 主幹 | 本田直樹 |
| FAX 0867-66-4626 | 主幹 | 森本高輝 |
| | 技師 | 峠田大志 |
| | 嘱託 | 金盛隆志 |
| | 臨時 | 宮本美佐枝 |

全農岡山県本部 畜産部 組織図

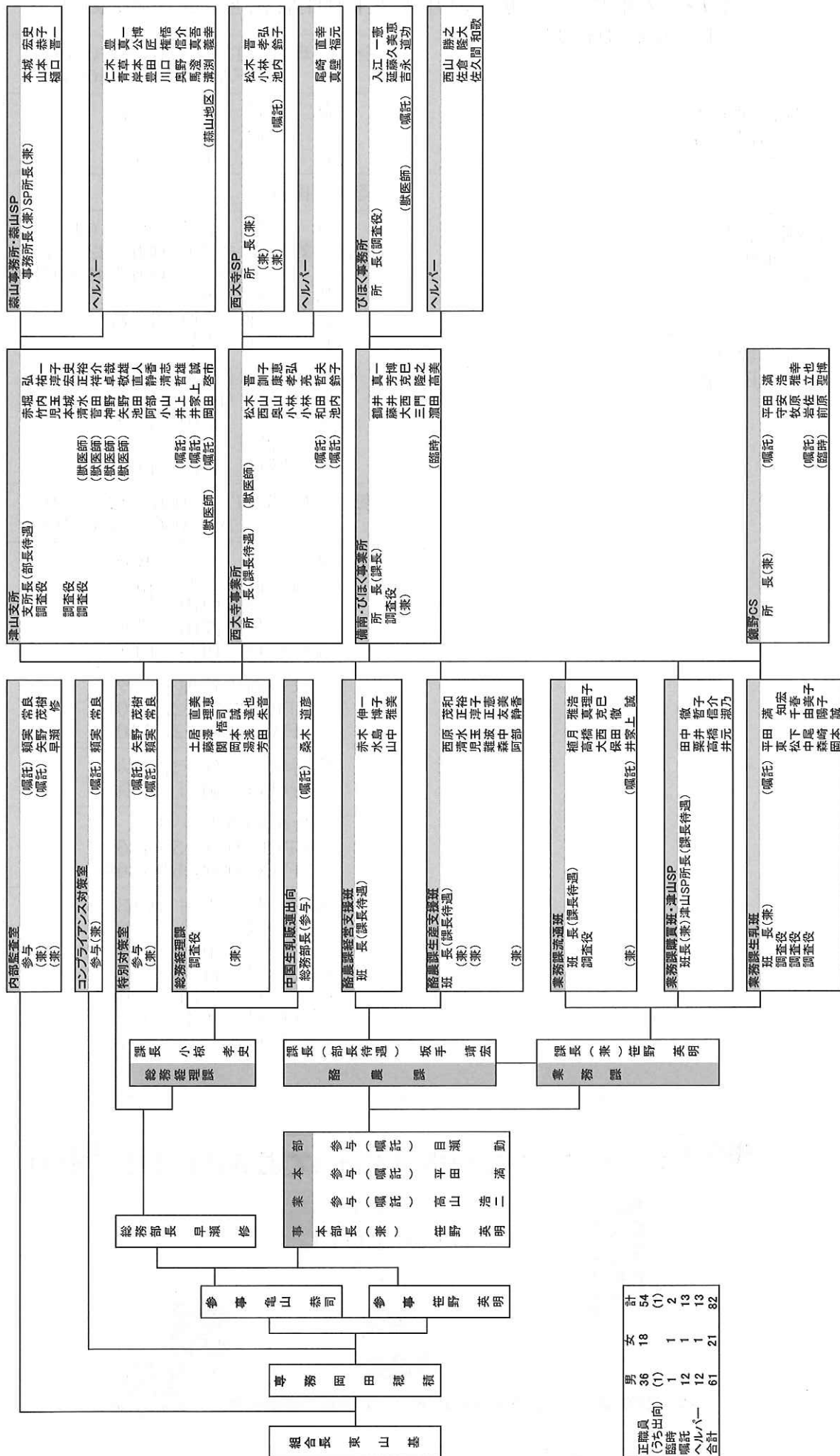


全農岡山県本部 畜産部 人事配置

平成 27 年 4 月 1 日現在

| 部・課 | 職 名 | 氏 名 | 備 考 |
|---|-------|--------|-----|
| 畜産部 | 部長 | 藤原 雅人 | |
| | 次長 | 難波 智明 | 兼務 |
| | 次長 | 柴田 憲志 | 兼務 |
| | 次長 | 川崎 敦史 | 兼務 |
| 畜産養鶏課 (畜産 086-234-6884) (養鶏 086-234-6885) | 課長 | 川崎 敦史 | 兼務 |
| | | 暮地岩 有斗 | |
| | | 太田 衣美 | |
| | | 石田 祥子 | |
| | | 槇場 勇貴 | |
| | | 原 千秋 | |
| 笠岡 GP センター (0865-62-5131) | センター長 | 川崎 敦史 | 兼務 |
| 久米 GP センター (0868-57-3911) | センター長 | 川崎 敦史 | 兼務 |
| 食肉販売課 (086-296-5088) | 課長 | 難波 智明 | 兼務 |
| | 専任課長 | 太田 裕之 | |
| | 専任課長 | 堀田 文博 | |
| | | 大森 康弘 | |
| | | 西野 芳仁 | |
| | | 阿食 赳正 | |
| | | 福島 美津子 | |
| | | 森川 修治 | |
| ミートセンター (086-296-5088) | センター長 | 藤原 哲 | |
| | | 大隅 義仁 | |
| | | 中村 倫政 | |
| | | 木下 貴博 | |
| | | 佐藤 茂 | |
| | | 川上 圭太 | |
| 家畜流通課 総合家畜市場 (0867-42-5333) | 市場長 | 柴田 憲志 | 兼務 |
| | 課長 | 西江 聡 | |
| | | 小野 階人 | |
| | | 小椋 一広 | |
| | | 植田 淑江 | |

おokayま酪農業協同組合機構図：平成27年4月1日付



| | | | | | |
|--------|---|-----|----|---|-----|
| 正職員 | 男 | 36 | 18 | 計 | 54 |
| (うち出向) | | (1) | | | (1) |
| 臨時 | | 1 | 1 | | 2 |
| 嘱託 | | 12 | 1 | | 13 |
| ヘルパー | | 12 | 1 | | 13 |
| 合計 | | 61 | 21 | | 82 |

平成27年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図

(平成27年4月1日現在)



| | |
|--|--|
| 企画管理部 (TEL 086-221-0511) (FAX 086-234-6031) | |
| 部長 | 本松 秀敏 |
| 調査役 | 小山 雅子 |
| 主事 | 井戸本由美 |
| 経営支援部 | |
| 部長 | 本松 秀敏 (兼務) |
| 経営対策班 | (TEL 086-222-8575) (FAX 086-234-6031) |
| 班長 | 西家 純一 |
| 技師 | 永原 睦恵 |
| 技師 | 池見 亮 |
| 価格対策班 | (TEL 086-234-5981) (FAX 086-223-4755) |
| 班長 | 築山 伴文 |
| (調査役) | |
| 嘱託職員 | 和田 直美 |
| 家畜衛生部 (TEL 086-232-8442) (FAX 086-234-6031) | |
| 部長 | 大塚 武宣 |
| 審議役 | 貝原 裕彰 |
| 参与 | 中山 敏之 |
| 参与 | 岡田 耕平 |
| 臨時職員 | 西林 由子 |
| 家畜衛生管理センター (TEL 0876-27-3101) (FAX 0867-27-3102) | |
| 臨時職員 | 佐々木 太 |
| 臨時職員 | 岡田 保 |
| 生乳検査センター (TEL 0868-54-7366) (FAX 0868-54-7368) | |
| 所長 | 小田 頼政 |
| 審議役 | 宇谷 修 |
| 調査役 | 中塚 智子 |
| 嘱託職員 | 村上 恭子 |
| 嘱託職員 | 本田 正司 |
| 嘱託職員 | 植木 美穂 |
| 臨時職員 | 安藤 智子 |



オールインワンが自信を持ってお届けします



BOVINE DAIRY GEL
Complementary feed for bovines
ボバイン デーリイジェル

体細胞の減少は
利益を
増大します。

毎日飼料での
減少率
約**88%**

生用栄養補助飼料

乳牛・肉牛飼料の専門メーカー



株式会社 オールインワン

中国支店 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL (086) 427-6300 FAX (086) 427-6011

岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(平成27年4月1日現在)

| 名 称 | 会 長 | 事 務 局 |
|------------------|-----------|-----------------|
| 岡山県産食肉地産地消推進会議 | 岡山県農林水産部長 | 岡山県畜産課 |
| 岡山県家畜人工授精師協会 | 大森 進 | 岡山県畜産課 |
| 岡山県酪農乳業協会 | 東山 基 | おかやま酪農業協同組合 |
| 岡山県産牛肉銘柄推進協議会 | 本松 允之 | 全農岡山県本部畜産部 |
| 岡山県産豚肉消費促進協議会 | 草苺 完治 | 全農岡山県本部畜産部 |
| 岡山県養鶏協会 | 安原 健二 | 鳥城養鶏農業協同組合 |
| 岡山県ふ卵協会 | 山上 恭宏 | 農林水産総合センター畜産研究所 |
| 岡山県装削蹄師会 | 平井 計行 | 岡山県農業共済組合連合会 |
| 岡山県養蜂組合連合会 | 吉村 信映 | 鈴木養蜂場 |
| 岡山県和牛子牛資質向上対策協議会 | 藤原 雅人 | 岡山県畜産協会 |
| 岡山県畜産経営総合支援協議会 | 藤原 雅人 | 岡山県畜産協会 |
| 岡山県馬事畜産振興協議会 | 樋口 義男 | 岡山県畜産協会 |
| 岡山県養豚振興協会 | 石原 正敬 | 岡山県畜産協会 |
| 岡山県コントラクター協議会 | 石原 聖康 | 岡山県畜産協会 |

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 青江 一三

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4

TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



動物用医薬品
総合商社

MPアグロ株式会社

取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、
動物用機器・機材、土壌検査器具・機材 他畜産関連商品

事業所一覧

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13 TEL 011-376-3860 FAX 011-376-3450
岡山オフィス 〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号 TEL 086-224-1811 FAX 086-224-1819
AHSC西日本 〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号 TEL 086-270-9510 FAX 086-270-8371
御津物流センター 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4816 FAX 0867-24-4882

【中国営業部】

岡山支店 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4880 FAX 0867-24-4889
広島支店 山口支店 鳥取支店 島根支店

【四国営業部】高松支店 徳島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 兵庫支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 釧路支店 東京支店

【東北営業部】青森支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 宮崎食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店 東京食品支店

※AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です



株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所 所在地

- ・東北支店
宮城、福島
- ・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

FOSS

■安全性評価用ラインナップ

食品の安全性への関心はますます高まっています。米国チャーム社の生乳の分析ソリューションは特定の抗生物質の残留から、幅広い抗菌性物質の残留、または高感度の生乳中のアフラトキシンの分析で世界中で幅広く使用されています。

チャームROSAテスト(生乳用)

ピルリマイシンキット
ペーダラクタムキット
テトラサイクリンキット
キノロンキット
サルファキット
アフラトキシニンキット他

チャームROSA-Mテスト(マイコトキシン用)

アフラトキシニンB₁/B₂
DON・ゼアラレノン
フモニシン
オクラトキシニン他

ブルーイエローテスト/カウサイドテスト

手軽なバイオアッセイキットは生乳用ROSAシリーズより幅広い阻害剤を検出します。



NEW Charm EZ-M

米国Charm社のイムノクロ的システムに新シリーズ登場。インキュベーターとリーダーが一体化。読み取りモードはカラータグが自動で選択します。



Charm EZ



ROSAリーダー ROSAインキュベーター



■その他FOSS製品ラインナップ

乳・乳製品の成分分析のスタンダード ミルコスキャンをはじめ、化学分析の安全な自動化を可能にするFOSSのソリューションは生産から製造まで成分品質の管理に幅広くご活用頂けます。

ミルコスキャンFT1

液体分析の専用機。乳製品をはじめ豆乳の分析が可能。



ミルコスキャンマイナー

生乳・牛乳分析専用の小型機



フォス・ジャパン株式会社

○東京本社

〒135-0016 東京都江東区東陽2-4-14
三井ウッディビル 1階

TEL03-5665-3821 FAX03-5665-3826

○札幌営業所

TEL011-518-1831 FAX011-518-1833

○九州営業所

TEL096-292-8681 FAX096-292-8682

E-mail: info@foss.co.jp

URL: www.foss.co.jp

Dedicated Analytical Solutions

OHAYO

生乳のおいしさ、ぎゅっと濃縮

オハヨー 特濃4.4ミルク



オハヨー乳業の「特濃4.4ミルク」は、食品の国際的な品評会である“モンドセレクション”において、07-09年の3年連続で金賞を受賞。さらに、品質の高さを称える「インターナショナル・ハイクオリティ・トロフィー」も受賞しました。



www.ohayo-milk.co.jp

オハヨー乳業株式会社

汎用型飼料収穫機

SMR1000

細断型で高密度に梱包し、
高品質で長期保存に優れたサイレージづくり。



SMR1000+SMR-RC (ロークロップアタッチ装着)

先端アタッチの交換により、多様な飼料作物に対応

トウモロコシ



ロークロップアタッチ

飼料イネ



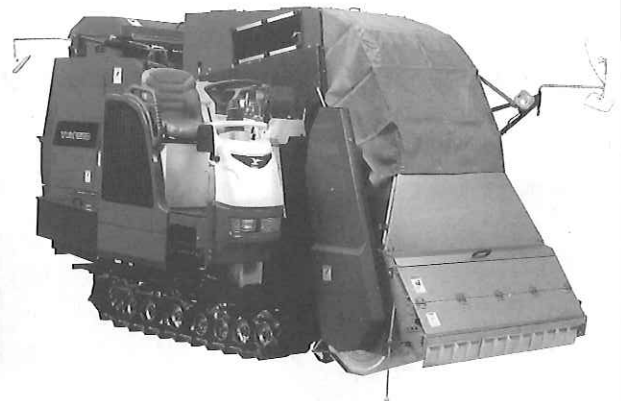
リールヘッドアタッチ

予乾牧草



ピックアップアタッチ

ヤンマー飼料 コンバインベアラ YWH1500



ヤンマーアグリジャパン株式会社

岡山推進部 岡山県倉敷市亀山622

TEL086-428-5153

高知競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

| 5 月 | | | | 6 月 | | | |
|--------|------|-------------------|------|-------|------|-------------------|------|
| 開催日 | 備考 | 開催日 | 備考 | 開催日 | 備考 | 開催日 | 備考 |
| 1 金 | | 17 日 ○ | ナイター | 1 月 | | 17 水 | |
| 2 土 | | 18 月 | | 2 火 | | 18 木 | |
| 3 日 | | 19 火 | | 3 水 | | 19 金 | |
| 4 月 ○ | ナイター | 20 水 | | 4 木 | | 20 土 ○ | ナイター |
| 5 火 ○ | ナイター | 21 木 | | 5 金 | | 21 日 ○ | ナイター |
| 6 水 ○ | ナイター | 22 金 | | 6 土 ○ | ナイター | 22 月 | |
| 7 木 | | 23 土 ○ | ナイター | 7 日 ○ | ナイター | 23 火 | |
| 8 金 | | 24 日 ○ | ナイター | 8 月 | | 24 水 | |
| 9 土 | | 25 月 | | 9 火 | | 25 木 | |
| 10 日 | | 26 火 | | 10 水 | | 26 金 | |
| 11 月 | | 27 水 | | 11 木 | | 27 土 ○ | ナイター |
| 12 火 | | 28 木 | | 12 金 | | 28 日 ○ | ナイター |
| 13 水 | | 29 金 | | 13 土 | | 29 月 | |
| 14 木 | | 30 土 ○ | ナイター | 14 日 | | 30 火 | |
| 15 金 | | 31 日 ○ | ナイター | 15 月 | | | |
| 16 土 ○ | ナイター | ナイター(15:30~20:50) | | 16 火 | | ナイター(15:30~20:50) | |

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

岡山県馬事畜産振興協議会（事務局 岡山県畜産協会）は、平成27年3月21日（土）に高知競馬場において、「岡山県ももたろう特別」競走の第2回目を開催しました。

レースは、第7R、サラ系で、ゾネブルム号（馬主 ホースケア）が勝利し、馬主や騎手の皆さんに、おかやま和牛肉を贈呈しました。



あ と が き

昨今、少子・高齢化により、どの職場でも後継者の育成が喫緊の課題であると聞く。畜産業界も同様で、後継者不足によって、生乳や肉用牛の生産量を確保することが難しくなってきている。

こんな中、3月18日、蒜山の酪農大学校で卒業式が行われ、26名の卒業生が「自営」や「牧場勤務」など自らの夢に向かって巣立っていった。また表紙で取り上げた川崎さんも、北海道から本県へご夫婦で移り住み、酪農家から譲り受けた牧場で昨年9月から経営を開始された。このような意欲ある若者が力強く歩みを進めることで、本県はもとより日本の畜産が元気になっていくことを期待している。

当協会としても、新規就農希望者を対象とした講座やスキルアップ研修をはじめ、他産業からの就農促進や就農後のフォローを目的とする就農相談会などを通して、後継者を見守り応援していきたい。(N・S)

岡山畜産便り 4月号(春季号)

第66巻第3号（通巻656号）
平成27年4月25日発行
定価250円（消費税・送料含）

発行人 樋口義男 編集人 柴田範彦
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階
TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031
印刷所 岡山県農協印刷株式会社

取扱品目のあらまし

動物用ワクチン・血清類一切,獣医畜産用薬品全般
家畜・家禽の飼料添加剤各種,獣医畜産用器具機械類
衛生材料(ガーゼ・脱脂綿・繃帯・その他)
土壌関係検査測定器具・試薬



JYUCHIKU Co. Ltd.

株式会社 ジュウチク

岡山市北区奉還町4-4-11 岡獣ビル内 TEL 086-214-2288
FAX 086-214-2287

果物・野菜用
植物活力剤

乳酸菌系葉面散布剤

ラクトのチカラ

細胞の活性化 生育促進



使用目安(方法) 良くまぜてからお使い下さい。育苗時・本圃定植後に500倍~1,000倍に水で希釈し葉面に散布してお使い下さい。施用回数は7日~10日に1回が目安です。生育状況に応じて散布回数を調整して下さい。使用後は噴霧機など機器内に希釈液が残らないように洗い流して下さい。目の細かい機器を使用する際は、目詰まり防止のためフィルターをご使用下さい。

〔植物活力剤〕〔窒素・リン酸・加里各1%未澱〕〔成分:豆乳・ブドウ糖・クエン酸・乳酸菌〕〔保存上の注意:乳酸菌等の働きにより、ガスが発生する場合があります。希釈した液は保存できませんので、その日の内に使い切ってください。開封後はなるべく早く使い切ってください。〕〔飲用不可〕

有機栽培なら

灌水チューブで水と一緒に流してOK!

根張りが良くなる! 根の活着促進! 育苗日数短縮!



製造総販売元

フタバ飼料株式会社 バイオ事業部

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1
TEL 086-953-0832 FAX086-953-1870

e-mail:info@futabashiryu.co.jp